

LED表示灯

1：起動中

ゆっくり点滅(3秒間)：DSPが起動中で、eepromからコードを読み込んでいます。(ブート障害が検出された後、最大5回までこのプロセスを繰り返します)。
消灯(1秒以内)：MCU(制御装置)がフィルターなどの設定をレジスターに書き込んでいます。
点滅：1つのレジスターの書き込みに成功しました。

2：起動完了

消灯：起動に成功しました。
点灯：起動中にエラーが発生しました。

3：動作中

短く不規則な点滅：クリッピングせず出力されています。
速く等間隔な点滅：ADCにてオーバーフローが発生、入力は保護のためミュートになっています。
点 灯：オートフェイドを検知し、メインミキサーの動作を停止しました。ただし、ずっと点灯したままの場合は別のミキサーが動作中で、バックフェイドタイム中です。

4：DSPソフトウェア操作中

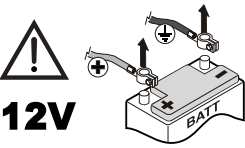
DSPソフトウェアからデータを送受信するたびにLEDは点滅します。

5：シャットダウン

シャットダウン時には、ゆっくり点滅します。

6：特殊

MCUが何らかのエラーで停止した場合、LEDは点灯したままになります。
DSPソフトウェアよりファームウェアの送信が完了したとき、約1秒間点灯し(この時DSPはリセット動作中)
約2秒間早く点滅(この時アップデート動作中)、その後起動動作に入ります。



WARNING!

取り付け、または取り外しの前に
バッテリーリードを外してください。

警 告
12ボルト車にのみ使用のこと。
作業前にターミナルを外してから作業を行って下さい。
現在の負荷、ケーブルの長さに合ったパワーケーブルとゲージを使用してください。
当マニュアルの表は安全使用できる最小ゲージを示しています。
可能な限り利用可能な最大のゲージを使用してください。



MIN. SECTION (AWG/mm²)

CURRENT (A)	MIN. SECTION (AWG/mm²)							
	0-20	20-35	35-50	50-65	65-85	85-105	105-125	125-150
	14/2	12/4	12/4	10/6	10/6	8/9	8/9	8/9
	20-35	12/4	10/6	8/9	8/9	6/14	6/14	6/14
	35-50	10/6	8/9	8/9	6/14	6/14	4/21	4/21
	50-65	8/9	8/9	6/14	4/21	4/21	4/21	2/34
	65-85	6/14	6/14	4/21	4/21	2/34	2/34	0/54
	85-105	6/14	6/14	4/21	2/34	2/34	2/34	0/54
	105-125	4/21	4/21	4/21	2/34	2/34	0/54	0/54
	125-150	2/34	2/34	2/34	2/34	0/54	0/54	0/54
	0-1.2	1.2-2.1	2.1-3.1	3.1-4.0	4.0-4.9	4.9-5.8	5.8-6.7	6.7-8.5
	LENGTH (m.)							

インストールの重要な手順

最大限のダイナミックレンジを確保し、同時にバックグラウンドノイズを可能な限り低減するためには、入出力の調整が必要です。

1.DSPからのオーディオ出力を遮断する。

2.DSPとアンプの入力レベルコントローラーを反時計回りに回して最小にします。

3.ピンクノイズを最大レベルで再生します。

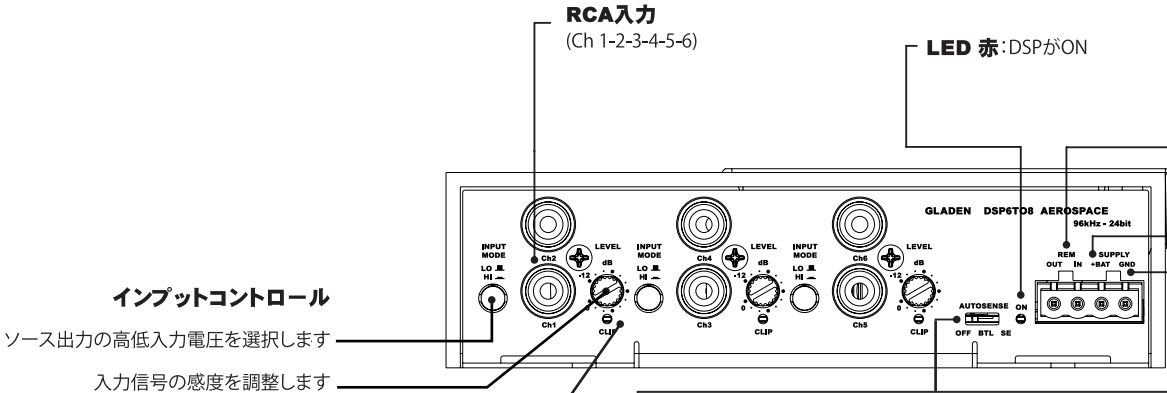
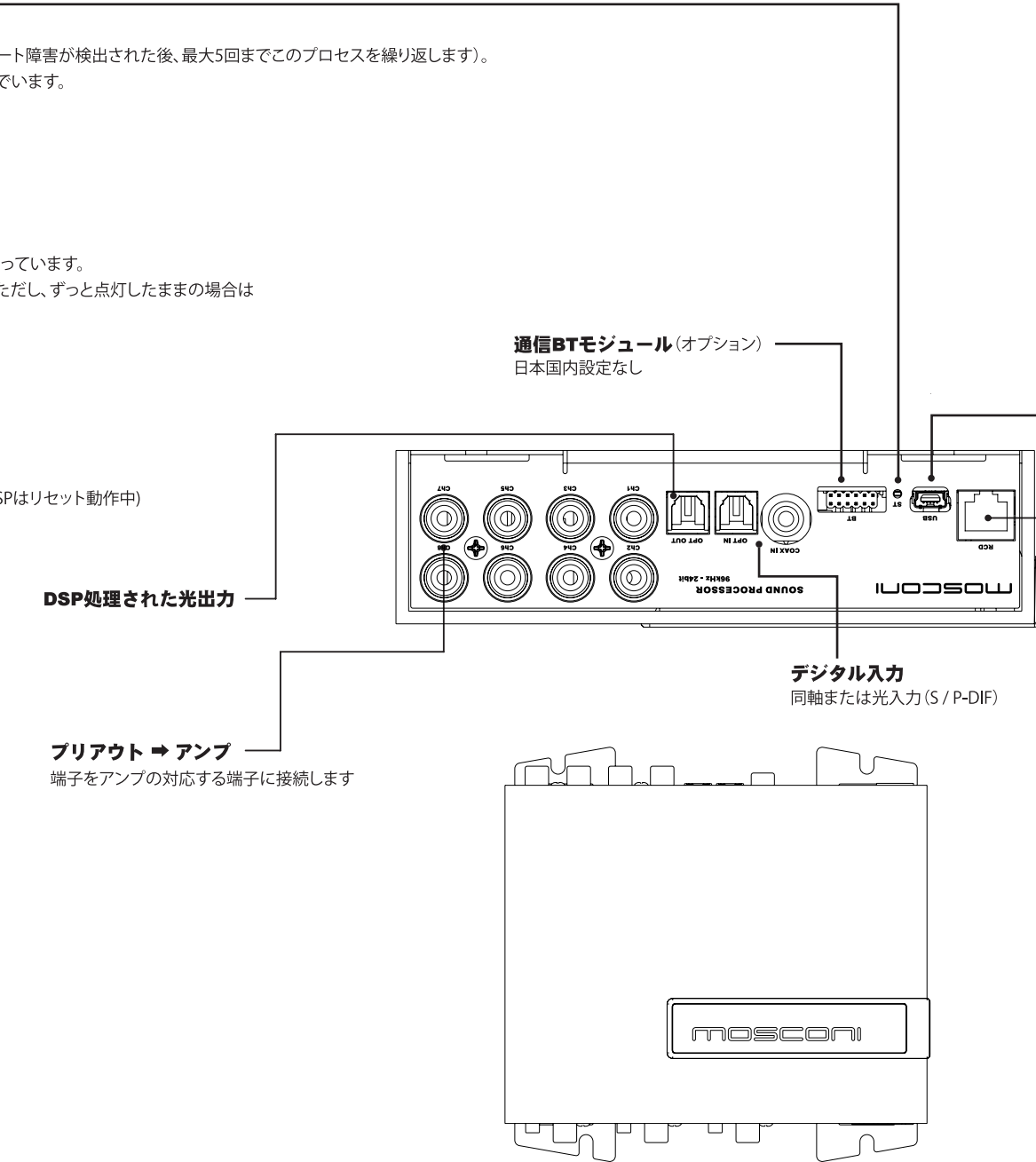
4.入力ステータスLEDが点滅し始めるまで、DSPの入力ゲインコントローラーを時計回りにゆっくりと回します。
次に、ゲインコントローラーを停止するまで元に戻します。

5.ソースを停止し、アンプを接続します。

6.DSPのアクティブクロスオーバーを事前に設定し、スピーカーを保護します。
そのためには、スピーカーのメーカーが推奨する方法を守する必要があります。

7.ヘッドユニットを歪みのない最大レベルに設定して音楽を再生します(通常、最高レベルの75~80%)。

8.アンプのゲインコントローラーをゆっくりと時計回りに回転させ、希望の歪みのないレベルに到達させる。



オートセンス：ソースに「BTL」技術がない場合は、「SE」に切り替えます。

「SE」は「シングルエンド」を意味し、「BTL」は「ブリッジタイドロード」を意味します。
「SE」と「BTL」は、すべてのヘッドユニットの電源出力段の電気的構成を指します。
古いヘッドユニットや安価なヘッドユニットは、出力段が低い(4Ωでチャンネルあたり10~15Wrms以下)ので、そのため、適切なオートセンス動作を実現するためには、「SE」モードを使用する必要があります。
最新のヘッドユニットはほとんどが高出力のステージを持っています(通常、4Ωで35~50Wrms/ch)を搭載しているので、「BTL」モードを推奨します。

***オートセンスを使用する場合はBTLモードにして下さい**
***BTLモードがない場合はオートセンスはOFFにして下さい**

最新のソフトウェアバージョンを入手するにはwww.gladen-audio.com / DSP / download /からダウンロードしてください。
ダウンロードの可能性がない場合は、販売店にお問い合わせください。

システム要件：Windows Vista、7、8、または10(32ビットおよび64ビット)。
「setup.exe」を起動すると、プログラムが自動的にインストールされ、デスクトップにアイコン(MOSCONI DSP)が配置されます。
次のステップの順序に注意してください!
アイコンをダブルクリックしてプログラムを開始します。DSPの電源を入れ、付属のケーブルを使用して、USBポートでDSPをPCのUSBハブに接続します。
60秒以内に自動的に接続します。
次に、データをDSPからPCにコピーするか、PCからDSPにコピーするかを決定します。メニューにはビデオチュートリアル(MP4形式)が含まれています(AdobeではQuickTimeが必要な場合があります)。終了するには、プログラムを閉じて、DSPとPC間の接続を閉じます。設定は自動的に保存されます。

重要：入力および/または出力の等化とクロスオーバーフィルターの非常に高い可変Qファクターをオーバーレイすることにより、簡単に行うことができます。
非常に高いクリッピングゲインが発生し、スピーカーが過負荷になる可能性があります。すべての段階でST警告クリッピングLEDを常に考慮してください。
セットアップ時には実用的な姿勢が必要です。そうしないと、損傷が発生します。
完全にアクティブなアプリケーション：誤った調整やソフトウェアのバグによる低周波数からツイーターを保護するために、ツイーターの前にシリアル10Fコンデンサーを使用することをお勧めします!

ソフトウェア ダウンロード

リモートコントロール(オプション)
リモコン端子をこのコネクタに接続します

Ch1-2-3-4 «FRONT»
Ch5-6 «REAR»
Ch7-8 «SUB»

リモートパワーコントロール
リモート信号 リモート信号をREM-INケーブルに接続

*REM回路に過大電流を加えると故障の原因となります。

プラス電源接続
ケーブルをバッテリーのプラス電源に、短絡しないようにしっかりと接続してください。
できるだけ短いケーブルをご使用ください(負荷による太さと長さはケーブル負荷表を参考にしてください)
付属のヒューズとは別に、バッテリーにできるだけ近い位置に外部ヒューズを取り付けてください。

ボディアース
車体のフレームまたはシャシーの金属部分にケーブルをしっかりと接続してください。
塗料をはがし、適正な端子を使用し、最短の長さのケーブルをご使用ください。

警告！BTLモードは、AUTONSENSE機能の標準モードです。

「インストールが完了したら、エンジンを切った後に、アンプの電源が切れているか確認をしてください。」

「SE」モードの誤った使用は、車のバッテリー上がりの原因になります。
「SE」モードの使用は、他のモードでは動かないときの最終手段として、自己責任において設定してください。
MOSCONI-GLADENは、この機能の誤用によって生じた損害については一切責任を負いません。
「SE」モードを使用する場合は、ここに記載されているルールに注意深く従ってください。
インストールが完了したら、ヘッドユニットの電源が入ってから数分以内にDSPアンプの電源がオフになることを確認する必要があります。オフにならない場合は、オートセンスが機能していないので「SE」モードは適しておりません。オートセンスのスイッチをOFFにしてください。

1ーヘッドユニット出力が35~50w/chを搭載してスピーカー出力を入力とする場合は「BTL」を維持してください。
2ーヘッドユニット出力が10~15w/ch以下及び、RCA入力の場合は「SE」設定。但しオートセンスが働かない場合はオートセンス機能をOFFにしてください。
3ー2つの動作モードの主な違いは、「BTL」がヘッドユニットの電源出力段のON/OFFを検知し、オートセンスがヘッドユニットの実際の状態に追従して動作することです。
オートセンスは、ヘッドユニットの電源が入っているか入っていないかを検知し、ヘッドユニットの状態に合わせて動作します。
「SE」は、ヘッドユニットの出力信号を一定のしきい値と常に比較し、それ以上の値であれば、オートセンス回路は少なくとも1分間はアンプを動作させます。
適切な信号が1分以上検出されると、アンプはオフになります。デフォルトの動作モードは「BTL」です。
1分以上適切な信号が検出されない場合、アンプはオフになります。初期設定の動作モードは「BTL」です。